

● 神楽の里

○ 農村風景

安芸高田市美土里町。

ここは、農村神楽がとても盛んな土地です。

町内には13もの神楽団があり、

お互いに切磋琢磨して、技を競い合っています。

○ 代掻き遠景

○ 津田さん

その1つ、神幸神楽団に所属する  
津田琢也さん。

以前は会社勤めをしていましたが、  
今は家業を継いで、米作りとしいたけ栽培の  
専業農家です。

○ 津田さんインタビュー

津田さん「親父がやっぱりその何とか家に帰って百  
姓をついでくれて言う形で、その熱意  
にちよっと根負けしたという形で、まあ、  
かなり不安はあるんですけどね、まあ、  
強しながらやっていこうかという風に決  
断しました」

○ 練習風景

夜、神社の神楽殿に集まって練習を行う  
神幸神楽団のメンバー。

神幸神楽団は、およそ200年の歴史を  
もつ古い神楽団です。

昭和20年代に県内各地の大会で優勝し、  
美土里町の神楽を一躍有名にしました。

○ 副団長インタビュー

増本さん「私が小学校の5年生の時から胴をたたき  
始めてもう30数年になるんですけど、

○津田さんインタビュー

あの親父が大工をやっていて、胴をたたくのをつくっちゃると、でこつちがこんだけの長さのこんなんが欲しいっていったら、それを寸法をちゃんとして作ってくれたのがこれなんですよ」

津田さん「親父も、祖父も、やはり同じ姫形でやっていたんでやっぱり自分も昔から見えて、そういう役をやってみたいなという思いはずっと持っていました」

○若い女性インタビュー

女性「いろんな年齢の人と一つになれて、最後に舞い終えた時の感動、皆で一つのものできたという、あの達成感がすごい、私は魅力だと思います」

○団長インタビュー

師岡さん「競演大会に呼ばれるということが、すごい名誉なことなんですよ。向うの実行委員会が集まって、どこ呼ぼうかっていう時に名前が挙がるっていうことがね、一番うれしいことです」

○車窓移動

4月は神楽シーズンの始まり。早速、競演大会の会場へ向かいます。

○現場に到着

神楽の盛んなこの土地では、市や町が地元だけでなく近隣の神楽団も招いて、定期的な大会をいくつも開いています。

○楽屋の様子

この日、神幸神楽団が招かれたのは  
廿日市市吉和町の大会。

○応援団到着

美土里町からの応援団も駆けつけました。  
いよいよ本番開始です。

○競演大会の舞台

○審査員たち

この大会には、広島県ばかりでなく、島根県からも神楽団が出場。全部で12の神楽団が演技を競いました。

○資料映像

この地域の神楽は、島根県石見地方から伝えられ、独自の発展を上げてきました。戦後は、農村の数少ない娯楽として人々に親しまれ、今はシーズンになると毎週どこかで競演大会が開かれるほど盛んになりました。

○悪狐伝・後篇

神幸神楽団の演題は十八番の「悪狐伝・後編」  
那須野ヶ原で退治される九尾狐の有名な物語です。

九尾狐が化けたお姫様役、津田さんの熱演が見所です。

○応援者のインタビュー

「全体にレベルがあがってますかね、まあ今の狐にしても、他のものの舞にしても、神もね、それから楽がまたよかったとおもうんですがね」

○団長のインタビュー

師岡さん「お客さんの反応としては、案外、一時ずつと静かになったから、これはいいかなと思ったんですがね。あとは審査員の判断ですね」

審査の結果は惜しくも準優勝でした。